

住民の温泉資源の利用と意識特性に基づく湯けむり景観の保全に関する課題 —重要文化的景観の保全活用に関する研究(その1)—

正会員 ○ 野本 昂* 同 姫野 由香**
同 牛 苗* 同 佐藤 誠治***

文化的景観 生活 温泉資源
地区住民 生業 認知度

1 研究の背景と目的

2012年9月、大分県別府市の鉄輪・明礬温泉地区(以下鉄輪、明礬とする)における「湯けむり景観」は、人々の生活・生業における多様な温泉資源の利用とその資源管理の取り組みが評価され、「重要文化的景観」^{注1)}に選定された。この地区の景観を保全するためには、単に景観を構成する各要素を保存するだけでなく、地区に関わる人々が生活・生業を理解し、温泉資源の利用を継続できる環境が必要である。また、文化的景観が日々の生活に根差した身近な景観であることから、日常生活の中でその価値に気付きにくい傾向にあるとされている。

そこで本研究では、地区住民と外来者の温泉資源の利用実態を把握し、温泉資源の利用継続における問題を明らかにする。さらに、重要文化的景観に選定された事実の認知度を把握し、周知の課題を明らかにすることを目的としている。

2 研究の方法

本研究では、温泉資源の利用実態と「湯けむり景観」が重要文化的景観に選定されたことについての認知度を把握するために、鉄輪、明礬の地区住民と外来者を対象とする。地区住民については地域で活動する各団体にグループヒアリング調査を行い、外来者についてはアンケート調査を行う。本報その1では、グループヒアリング調査の結果をもとに、地区住民の温泉資源の利用継続における問題と重要文化的景観の認知度に基づく周知の課題を中心に考察する。

2-1 グループヒアリング調査の概要

グループヒアリング調査は、鉄輪、明礬の重点景観計画区域内で生活環境維持活動に取り組む6つの自治会と、まちづくりに取り組む7つの地域活動団体の計13団体104人^{注2)~3)}を対象として、調査を行った。調査期間は、2013年7月から2014年1月である。

3 地区住民の温泉資源の利用実態

3-1 温泉資源の利用傾向

グループヒアリング調査の結果より、地区住民の温泉

資源の利用状況を、「生活」と「生業」の2つの場面に分けて整理した。さらに、温泉資源の利用目的別に利用人数を把握した(表1)。「生活」場面における温泉資源の利用率は、両地区ともに、90%以上である。一方で、「生業」場面における地区住民の温泉資源の利用率は、鉄輪で28.6%、明礬で46.2%であり、「生活」場面に比べて利用率は低いことがわかる。このことから、「生活」において地区住民は、日常的に温泉資源を利用していることがわかる。温泉資源の利用目的は、既往調査(2012年)によって、7種^{注4)}が確認されている。地区住民の温泉資源の利用目的は、新たに3種の利用目的が確認され、計10種の温泉資源の利用目的があることが明らかになった。両地区での地区住民の温泉資源の利用は、「生活」と「生業」共に、「浴用」の割合が、鉄輪で100%、69.2%、明礬で100%、66.7%と最も高いことがわかる。「生活」では、「浴用」に次いで「蒸し物用」の割合が、鉄輪で13.3%、明礬で23.1%であり、その他の利用も20%未満と全体的に低い傾向にある。このことから「生活」での温泉資源の利用は、「浴用」が中心であることがわかる。「生業」では、「浴用」に次いで、鉄輪では「蒸し物用」が57.7%、「暖房用」が46.2%、明礬では「蒸し物用」と「湯の花用」が66.7%である。また、「生業」での温泉資源の利用は「浴用」だけでなく、「蒸し物用」、「暖房用」、「湯の花用」にも利用している。このことから、多様な温泉資源の利用は、生業の営みにより支えられているといえる。

3-2 温泉資源の利用継続における問題

地区住民が温泉資源を生活・生業で利用する際、それぞれの場面で抱える問題を明らかにするため、自治会(生活)と地域団体(生業)に分けて整理した(表2)。温泉資源の利用継続における問題は、合計127件挙げられ、これらの課題を大きく8つに分類した。最も多く挙げられた課題は、温泉資源を管理するために維持費がかかるなどの「維持・管理・運営の問題」であり、全発言数の31.5%である。これは今後、温泉資源の利用を継続するうえで、最も重要な問題であるといえる。次いで、

表1 温泉資源の利用状況と利用目的別人数の割合

地区	利用場面	回答者数	利用率 ^{※1)}		温泉資源の利用人数における利用目的別人数の割合(複数回答) ^{※2)}										
			利用人数	割合	浴用	蒸し物用	湯の花用	観覧用	飲用	温熱栽培用	暖房用	乾燥用	洗濯用	炊事用	
鉄輪	生活	91	83	91.2%	100.0%	13.3%	—	—	—	—	1.2%	13.3%	2.4%	3.6%	7.2%
	生業		26	28.6%	69.2%	57.7%	—	—	3.8%	—	46.2%	—	—	—	3.8%
明礬	生活	13	13	100.0%	100.0%	23.1%	—	—	—	—	—	7.7%	—	7.7%	
	生業		6	46.2%	66.7%	66.7%	66.7%	33.3%	—	—	16.7%	—	33.3%	50.0%	

※1・・・利用人数を回答者数で除した値

※2・・・利用用途別の人数を利用人数で除した

：当該回答者割合のうち最上位

：当該回答者割合のうち上位3項目

表2 温泉資源の利用継続における問題

	発言数	温泉資源の利用を継続するうえの問題								合計
		発言数	割合	発言数	割合	発言数	割合	発言数	割合	
自治会	58	15.5%	22.4%	31.0%	15.5%	10.3%	3.4%	0.0%	1.7%	100.0%
地域団体	69	13.0%	39.1%	24.6%	10.1%	5.8%	2.9%	2.9%	1.4%	100.0%
全体	127	14.2%	31.5%	27.6%	12.6%	7.9%	3.1%	1.6%	1.6%	100.0%

：問題の数のうち最上位

：問題の数のうち上位2項目

The Extracted Issues about Conservation of Cultural Landscape of Hot Spring Steam
from Residents' Using Hot Spring Resource and Attitude

-A Study on Conservation and Utilization of the Important Cultural Landscape (1) -

NOMOTO Subaru
HIMENO Yuka, GYU Myo, SATO Seiji

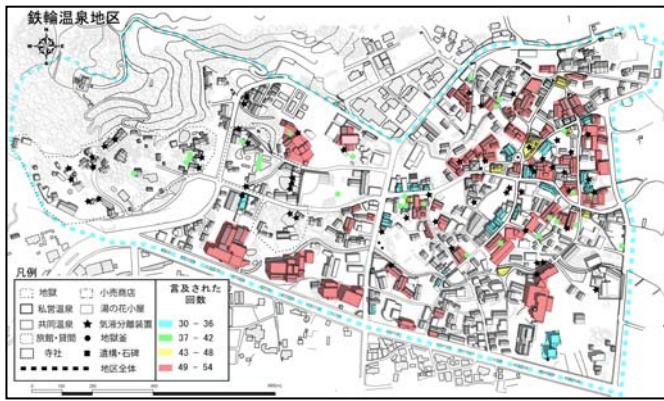


図1 温泉資源の利用継続上言及された要素の分布

湯けむりの蒸気で電化製品が壊れるなどの「湯けむりによる弊害」が全発言数の27.6%である。このことから、湯けむりが、両地区で生活・生業の継続を困難にしている側面もあることがわかる。また自治会では、地域団体に比べ「湯けむりによる弊害」や「利用時の不満」の発言数に対する割合が大きい。一方地域団体では、「維持・管理・運営の問題」の発言数に対する割合が大きい。次に、温泉資源の利用継続上、問題があると言及された景観構成要素を地図上に表した(図1)注5)。「地区全体」が「湯けむりによる弊害」により言及されている。このような景観構成要素は4つあり、「旅館」、「共同温泉」、「地獄釜」、「小売商店」の順に、利用継続上に問題がある対象として言及される回数が多い。

4 重要文化的景観の認知度に基づく周知の課題

4-1 重要文化的景観の認知度

地区住民の鉄輪・明礬温泉地区における「湯けむり景観」が重要文化的景観に選定されたことの認知について、「選定された事実の認知」とその「評価内容の認知」に分けて調査した(図2)。外来者は「選定された事実の認知」のみ調査した。地区住民の「選定された事実の認知」は、自治会・地域団体ともに60%以上であり高いといえる。しかし「評価内容の認知」は、どちらも30%程度にとどまる。このことから、地区住民は重要文化的景観に選定されたことは把握しているが、何が評価されたかなどの内容までは理解できていないことがわかる。

4-2 周知上の課題

地区住民によって「湯けむり景観」が重要文化的景観であることを周知するための課題が、合計52件挙げられた。傾向を把握する為に、これらの意見を大きく4つに分類して集計した(表3)。最も多く挙げられた課題は、温泉資源を幼いころから利用しているため、その存在が当然であると考えているため意識できない、などの「価値ある『景観』としての認識が困難」といった意見が、全発言数の34.6%である。次いで、周知の機会のあり方(説明方法や時間帯)などの「広報に対する不満」が30.8%である。地域団体からは、そもそも文化的景観とい

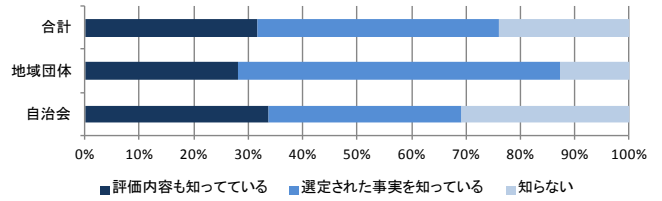


図2 重要文化的景観に選定された事実に関する認知度

表3 周知上の課題

	発言数	周知上の問題				合計
		制度・言葉が難しい	価値ある景観として認識が困難	広報に対する不満	周知のための施設・設備がない	
自治会	22	9.1%	31.8%	36.4%	22.7%	100.0%
地域団体	30	23.3%	36.7%	26.7%	13.3%	100.0%
全体	52	17.3%	34.6%	30.8%	17.3%	100.0%

注: 問題の数のうち上位 2項目

う言葉の分かりにくさがあるといった「制度・言葉が難しい」や「価値ある景観として認識が困難」といった課題が多く挙げられる傾向にあった。つまり、周知においては制度や調査資料に用いられている言葉や表現をそのまま利用するだけでなく、キャッチコピーや周知資料の表現への配慮、説明会以外の周知方法の検討など、一般市民にも理解や共感を得やすい工夫が求められる。

5 総括

本報では、温泉資源の利用実態を把握し、温泉資源の利用継続における問題を明らかにした。維持・管理の問題が多く挙げられるため、今後は資源管理の取り組みについて検討する必要がある。また、重要文化的景観の認知度は低かったが、湯けむり景観を保全するために、生活・生業が変化する中で、地区住民が、何が本質で重要であるか理解することは大切である。今後は湯けむり景観の本質を理解頂くためにも、言葉の表現や既に地域で取り組まれている活動と直系するなど、周知方法を検討する必要がある。

【補注】

- 注1) 「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第一項第五号より)」
 注2) 研究対象地区の地区分け



注3) ヒアリング対象団体の属性

団体名	属性	属性				ヒアリング対象人数
		温泉資源	温泉施設	温泉文化	温泉歴史	
明礬温泉会	19	●	●	●	●	12
明礬温泉会	19	●	●	●	●	15
明礬温泉会	19	●	●	●	●	5
明礬温泉会	19	●	●	●	●	14
明礬温泉会	19	●	●	●	●	10
明礬温泉会	19	●	●	●	●	16
明礬温泉会	19	●	●	●	●	6
明礬温泉会	19	●	●	●	●	2
明礬温泉会	19	●	●	●	●	1
明礬温泉会	19	●	●	●	●	1
明礬温泉会	19	●	●	●	●	5
合計	108	100%	100%	100%	100%	104

注: 1) 属性は温泉資源、温泉施設、温泉文化、温泉歴史、温泉歴史、温泉文化、温泉施設、温泉資源

- 注4) 温泉台帳に記された「浴用」、「蒸し物用」、「湯の花用」、「観覧用」、「飲用」、「温熱栽培用」、「暖房用」の利用目的のことを指す。
 注5) 温泉資源の利用継続における問題との関係が特定された108件のことを指す。本報では紙面の都合上、鉄輪についてのみ考察する。

【参考文献】

- 1) 麻生美希, 松本将一郎, 柿原芳章, 山口知恵, 西山徳明「日田市『小鹿田焼の里』文化的景観の保存計画に関する研究 その3 文化的景観を構成する工物物の特性」, 日本建築学会九州支部報告, 第47号, 365-368, 2008年3月
- 2) 山口知恵, 麻生美希, 柿原芳章, 松本将一郎, 西山徳明「日田市『小鹿田焼の里』文化的景観の保存計画に関する研究 その6 生業の持続と文化的景観の形成」, 日本建築学会九州支部報告, 第47号, 377-380, 2008年3月
- 3) 別府市誌, 第1巻~第3巻
- 4) 別府市生涯学習課「平成20年度湯けむり景観保存管理のための専門報告書」2009年3月
- 5) 奈良文化財研究所「文化的景観研究集会(第2回)報告書」2010年12月

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程

**大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

***大分大学 名誉教授・工学博士

* Graduate Student, Oita University

** Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita University, Dr. Eng.

*** Prof. Emeritus, Oita University, Dr. Eng.